

日暮れが早くなり夜長を楽しむ秋。読書や音楽、絵画にDVD、趣味の世界が広がります。イギリスに帰った伊都さんは、もう12月のコンサートの準備にかかっているようですね。私達も今年の締めくくりに向けて用事を片付けなければ、と思いながらも、ワイン片手にファンタジーの世界を巡りたい夜長です。



近況報告



私がロンドンに戻った、9月終わり、イギリスは近年まれにみる暖かで、晴天の続く秋を迎えていました。ヨーロッパの秋は厳しい冬の前哨戦、天気は穏やかに晴れても、風は身を切るように冷たく、さあ、そろそろ寒くて暗い冬がやってくるぞとの予告をひしひしとを感じる日々が待っているのだろうと、身構えながらロンドン入りをした私は、毎日最高気温が25度を超え、夏が舞い戻ってきたかのような気候に、完全に肩透かしをくらい、すっかり気が抜けてしまいました。



10月に入り、待ってましたとばかりに、まるで一枚白い膜が世界を覆ってしまったかのような、霧のたちこめる朝、そして、一日中晴れることのない低く重い曇り空を、うらめしい気持ちで見上げながら、ラジオが告げるほとんどあたることのない天気予報（イギリスは天気予報が当たらないことで有名です）の“一時的には晴れることもありそうです”との一時的（sometime）とは実際のところ、どのくらいの時間を指すのだろうか？といぶかりながら、近々到来するという大寒波、暗黒の冬に向けて、気持ちも体も戦闘態勢に入らなければいけないと思っています。

また12月のリサイタルにむけて、ロンドン、ウィーンで小さなコンサートをしながらか、準備を整える予定です。

【伊都】

第4回イギリス館コンサート

8月15日、TRAUBEN主催のイギリス館コンサートが今年も開催されました。伊都さんはシックな紺色のドレスで登場。ピアニストは今年1月のベリックホールと同じく、近藤紗織さんが担当して下さいました。前半はヘンデルのヴァイオリンソナタや、パガニーニ、またお馴染みのモーツァルトとボッケリーニのメヌエット。休憩時には、いつものオーストリアワイン「グリューナーフェルトリーナ」で熱気を冷やしました。

後半は震災への鎮魂の思いを込め、チャリティコンサートでもよく演奏したという、ラフマニノフのヴォカリーズ、讃美歌にもなっているグノーのアヴェ・マリア、アンコールには絶品、エルガーの愛の挨拶とモンティのチャールダッシュで締めました。古い洋館ならではの雰囲気の良いさと伊都さんのヴァイオリンを今年も堪能し、帰り道フランス坂を下る頃には、暑さも納まりました。来場して下さいました皆様、ありがとうございました。



お友達の可愛い赤ちゃん



いとちゃんの
クラシック講座

op.13

イギリスが名だたる大国だったのにも関わらず、傑出した音楽家、作曲家を輩出していない話を前回書きましたが、イギリス人ではありませんが、英国に帰化し、英国での活躍で知られている作曲家に J.F ヘンデルがいます。(ちなみにヘンデルは英語読みだとハンドル=車のハンドルと同じで、一度演奏に「ハンドルをお願いします」といわれて、とまどったことがあります)

バロック期を代表する作曲家で、J.S バッハと並び称されて、バッハは「音楽の父」ヘンデルは「音楽の母」と呼ばれていますが、実はこの二人、同い年(1685年)、ドイツの同じ地方(現ドイツ中東部)生まれ。しかも、晩年視力低下に悩み、同じ眼科医に手術を頼んだものの、実はこの眼科医、国外追放を受けたほどのいわくつきのやぶ医者で、この手術の失敗によって、バッハは4か月後、ヘンデルは一年後に亡くなったといわれています。(同時期ではなかったようですが)

二人は生前再三、面会を試みるものもかなわず、生涯会うことはなかったそうですが、視力低下の原因となった脳卒中を患ったこと、また風貌も似ており(当時のかつらのせいもあるかもしれませんが)この二人、何か因縁を感じずにはられません。 【伊都】

D V D C l a s s i c C o l l e c t i o n

作品 No.10 「ドン・ジョヴァンニ」
—天才劇作家とモーツァルトの出会い— 2009年イタリア/スペイン

ストーリー 1781年、聖職者で詩人のダ・ポンテは背徳行為でヴェネツィアを追放され、ウィーンでモーツァルトに出会い、二人はオペラを制作することになる。ダ・ポンテは伝説の色男「ドン・ジョヴァンニ」(ドン・ファン)の物語の脚本を書くが、そこに自身の生き様を重ね合わせる。

見どころ ストーリーの進行と劇中劇のオペラの進行がうまく重なり合う。現実のウィーンの街のセットがわざと舞台のように絵(書き割り)になっていたりする非現実感が面白い。モーツァルトと劇作家ダ・ポンテのコンビは他に「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」の大ヒットオペラを生み出している。

感想 ハンサムで真面目そうな主人公は純愛を貫き、そんなに放蕩者には見えないのだが…自由を追い求める作曲家と劇作家は似た者同士。若い情熱が、名作を生む舞台裏がよくわかる。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

第9回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2011年12月22日(木)

6:30pm 開場 7:00 開演

横浜みなとみらいホール 小ホール

もうすぐお手元にご案内が届くと思います。

会員限定クリスマス抽選会を今年も行いますので

お帰りの際はぜひ後援会受付にお立ち寄り下さい。

編集後記 一年はあっという間に過ぎ去り、また年末年始の予定を考える時期がめぐってきました。/12月のリサイタルも来年は10年!!何か記念になるコト?モノ?を考えなくちゃ、ですね。/そういえば後援会も来年は5年目ですか?早っ!/5年前の自分の写真は、当たり前だけど5歳若いわけで、目尻も口角も今より上がっているのを見ると、時の流れをズキッと感じるのは私だけ?/ともかく、来年は良い節目の年にしましょう。/今年のリサイタルはクリスマス三連休の前夜、とカレンダーのグッドポジション。学校も冬休みに入るのでしょいか? 気持ちも盛り上がりそうですね。 <ゆ>

発行:加納伊都後援会 T R A U B E N

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15
TEL: 045-622-6780
FAX: 045-621-6423
Email: itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp
Homepage: http://www.ito-vn.jp/